

2024 年度 第8回 公立大学法人埼玉県立大学教育研究審議会 議事録

1 開催日

2025 年 1 月 6 日(月)

2 開催方法

WEB 会議

3 参加者

星議長、磯田委員、伊藤委員、林委員、金村委員、東委員、濱口委員、田中委員、國澤委員、山崎委員、久保田委員、河村委員、廣渡委員、野中委員

オブザーバー参加：田口学長補佐兼専門職連携教育研修センター長、延原情報センター長、北畠地域連携センター長、滑川保健センター長

4 事務局

長岡副局長、高柳調整幹兼総務担当部長、濱口財務担当部長、酒井施設管理担当部長、小原教務・入試担当部長、今村学生・就職支援担当部長、篠原企画・情報担当部長

5 議事概要

【議事録確認】

議長から前回の議事録が提示され、内容について確認された。

【審議事項】

(1)カリキュラム改訂基本方針について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から説明され、案のとおり承認された。

○ 卒業単位数について、130単位で収まりそうか。

⇒ 現状ではわからない。上限を130単位とすることを検討、としており、決まったわけではない。本学の卒業生の単位取得状況を調査したところ、卒業単位数ギリギリで卒業している学生が多い。卒業単位数はあまり増やせない、というのが高等教育開発センターの意見である。

○ ポートフォリオについて、学科・専攻の裁量となっているが、これも検討中ということか。

⇒ できれば e-ポートフォリオを共通にしたいと考えていたが、その活用が難しい学科・専攻もあったので、紙媒体を含むポートフォリオを導入していく方向としている。なお、現在使っている Webclass と CampusAvenue がそれぞれ連動しておらず、データの把握が難しい状況である。次期 LMS(ラーニングマネジメントシステム)をどうするかも含めた検討が必要である。

- 卒後続く自己研鑽力を育成する科目の見直しについて、実習や卒研の評価を厳格にしていこうということか。また、アントレプレナーシップ教育の導入可能性はどの程度あるか。
 - ⇒ 作業療法学科がすでにアントレプレナーシップ教育を導入している。また、卒研について調査したところ学科・専攻によって単位数や内容が異なっており、論文を書くのではなくグループで何かに取り組んでいるところもある。内容や評価方法等を含めて、今後の自己研鑽力の育成に繋がるものに変えていく、という主旨である。

【報告事項】

(1)2024 年度前期授業評価・学修成果アンケートの結果について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

- DP5 の国際性・地域性を向上させるために、新カリキュラムではどのような検討をしているか。
 - ⇒ 科目を大きく変えるのは難しいと思っている。この DP で求めているのは国際性と地域性の両方なので、英語だけではない、という方向で DP の表現を変えることを検討している。

(2)2024 年度前期累積 GPA の結果報告について

資料に基づき、東高等教育開発センター長から報告された。

- コロナ禍で GPA が高くなっているのは、評価方法が難しかったせいかな。
 - ⇒ この要因として、成績評価の仕方によるものなのか、講義動画を繰り返し視聴できること等による学修成果の向上なのか、そこまでの分析は出来ていない。

(3)名誉教授選考委員会委員について

資料に基づき、長岡副局長から報告された。